令和６年度委員会報告

〔 ４ 〕学会委員会　　委員長　上岡　和代

1.委員会開催状況

1)委員会　10 回

(1) 第 24 回福岡県看護学会について

①運営方法について　②シンポジウムについて　③抄録選考について
④プログラムについて　⑤研究発表支援員について　⑥特別企画について
⑦発表者と支援員のための説明会及び面談会について　⑧集録集について

(2)第 25 回福岡県看護学会について

①運営方法について　②テーマについて　③特別講演について
④シンポジウムについて　⑤ポスターチラシについて　⑥学会実施要綱について
⑦特別企画について　⑧広告掲載企業について　⑨研究発表支援員マニュアルについて
⑩令和７年度のスケジュールに関して

(3)その他

①　委員長、副委員長 互選について　②令和７年度学会委員会活動内容事業計画について

2.活動報告

1)研修会等開催

(1)研修名　「第 24 回福岡県看護学会　看護の真価～看護の未来を語ろう～」

開催日　令和７年１月 25 日(ナースプラザ福岡にて集合開催)
令和７年２月５日～３月５日(オンデマンド配信)

内　容　①口演発表 19 演題　示説発表８演題(申込演題 31 演題、採択演題 27 演題)

②特別講演「３度のがんを経験して私が感じたこと～看護職へのメッセージ～」

講　師　フリーアナウンサー　磯田　久美子 氏
座　長　福岡県看護協会　会長　大和　日美子 氏

③シンポジウム「今人生会議に関わる看護の真価とは～対話から広がる支援～」

講　師　九州がんセンター　安永　浩子 氏 ※コーディネーター
聖マリア訪問看護ステーション　古賀さとみ 氏 ※シンポジスト
大牟田市立病院　江川　陽子 氏 ※シンポジスト
福岡和白病院　新留　聖哉 氏 ※シンポジスト

④委員会報告Ⅰ

進　行　福岡県看護協会　新人看護職員研修運営委員会/九州大学病院
井上　辰幸 氏
福岡県看護協会　新人看護職員研修運営委員会/産業医科大学病院
岩田　恵子 氏

「ALL FUKUOKA　未来の看護の為に新人看護職員研修体制を整備しよう
～新人看護職員アドバイザー派遣事業を通して～」

報告者　東筑病院　日南　厚子 氏
福岡大学筑紫病院　奥園　夏美 氏
おかがき病院　本田美千代 氏
九州中央病院　新町　咲子 氏

⑤委員会報告Ⅱ

「未来の看護職を育てよう！基礎教育と臨床(新人教育)をつなぐ視点
でみえてきたもの～コロナ禍を経験して～」

報告者　福岡県看護協会　看護の進路・進学支援委員会/久留米大学医療センター
原﨑　礼子 氏

「生涯学習支援について～施設内教育の状況と福岡県看護協会に求める
研修について語ろう～」

報告者　　福岡県看護協会　看護の進路・進学支援委員会/大牟田市立病院
古賀　幸代 氏
福岡県看護協会　教育研修部教育研修課
一法師久美子 氏
⑥看護研究セミナー　「最初が大事やけん！ 文献検索と活用方法」
報告者　　令和健康科学大学　看護学部看護学科　学科長　教授　　辻　慶子　 氏
⑦地区支部報告　「地域全体で取り組む看看・看介連携～「地域連携型看護サマリー」
の開発・運用～
報告者　　福岡県看護協会　7地区支部/福岡徳洲会病院　　　　瀬上希代子 氏
福岡県看護協会　7地区支部/福岡大学筑紫病院　　　　原田　英美 氏
対　象　看護職及び看護学生
参加者　711名(発表者を含む)
１校(看護学校)オンデマンド配信にて参加
⑵交流会・情報交換会等
⑴面談会　「発表者と支援員のための説明会及び面談会」
開催日　８月９日　※開催日に参加できない場合は、別日にオンラインで開催
内　容　学会発表者の研究に対して原稿のまとめ方の支援を行い、最終原稿の作成までを支援する
対　象　学会発表者及び発表者を支援する支援員
参加者　16組(発表者16組・支援員16名)

3. 今後の課題・検討事項等

第24回福岡県看護学会は、第23回に引き続き、通常開催及びオンデマンド配信でのハイブリッド開催とした。委員会では、より質の高い学会開催を目指し、昨年度の企画・運営を振り返りながら検討を重ねていった。

学会全体の評価としては、アンケートの結果から、参加満足度は94%、特別講演の評価においては「参考になった」「いくらか参考になった」で89%、シンポジウムについては「参考になった」「いくらか参考になった」で99%といずれも高い評価を得ることができた。

シンポジウムについてのご意見として「一人一人の講演時間をもう少しとってほしかった」「活発な意見交換に至らず残念でした」とあり、講演時間・フロアディスカッションの面において検討が必要である。

オンデマンド配信については、98%の方が「継続したほうがいい」との回答結果であったため、今後も参加の利便性や同時間帯に重なった講演を視聴できる等プラス面から継続する方向である。

学会参加者数は、コロナ禍開催の第20回～第22回より増加しているが、前年度よりも微減している。以前より課題となっているが、参加者の年代、病床数別の参加施設数や地区別に偏りがみられた。特に20～30歳代の参加の低さが顕著だったため、参加の増加に向けて引き続き内容を検討していく。また、第23回で休息時間が短いことに対しての不満足の意見が散見されていたため、第24回では、休息時間を確保し不満解消に努めた。次年度は、第25回で節目を迎え、プログラム数が増加する予定であるため、時間配分・休憩時間も十分検討し企画していく。

第25回は、引き続き広い視野で企画・運営を捉え、集合開催及びオンデマンド配信、それぞれのメリットを最大限に活かせるように取り組んでいきたい。